



サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗妙立寺住職
張田珠潮さん

第74回

私が住職を務める妙立寺は、別名「忍者寺」と呼ばれています。お寺の中には階段が29か所もあり、落とし穴や隠し階段などの仕掛けがいっぱい。まるで忍者屋敷のような複雑な構造であることから、その名が付けました。

このお寺は1643年、加賀3代藩主の前田利常公が移築建立した。当時は川をはさんで金沢城がありました。金沢城は規模こそ大きいものの街中にあるため、戦になつて籠城しても勝ち目のない城でした。敵に川を渡られる前に決着をつけようということ、



上／城下、南西部「寺町寺院群」にある妙立寺。左下／渡り廊下に見せて、床板を外すと落とし穴になる階段。右中／本堂正面に埋め込まれた寶銭箱には落とし穴にもなる仕掛けが。右下／物置の戸を開き、床板を外すと隠し階段が出現。

城の南側に大きなお寺をたくさん集めて寺町を作り、出城の代わりにしたのです。お城には落とし穴や隠し扉などの仕掛けがありますよね。それと同じものがこのお寺にも残っているというわけです。

私はこのお寺で生まれ育ちましたので、子どものころは2階へ行くのに階段がいくつもあるのが当たり前だと思っていました。普通の家には階段が1つしかないというのが大変不思議だったものです。小さいころから自然と、このお寺は私が継いで守っていくものだと思っていたので、大学院在学中にお坊さんの資格を取り、大学で教員を務めた後に住職となりました。

お葬式は最後のお別れの機会。きちんと見送ってあげて

最近、お葬式をいい加減にする人が多くなったように思います。人間は安易なほうに流されやすいので、「家族葬」などという言葉が生まれると、それがいいと思ってしまうのでしょうか。でも、お葬式はじくなった人が生涯につき合

ってきた人たちとお別れする会。残された家族は知らないかもしれないけれど、いろんな知り合いがいるかもしれません。そういう人たちに最後のお別れの機会を与えてあげないのは、故人にとつてもとても寂しいことだと思うのです。立派なお葬式をする必要はありません。ただ、きちんとした作法に則つて送つてあげることが大切。たとえお坊さん一人でも、心のこもつたお経を読んでもらうこと。そうすれば故人も「ありがとう」とうれしく思うはず。どう

家族の絆を大切に
「ご先祖様に「ありがとう」

そのためには普段から家族を大事にすることが大切です。自分がこうして生きていられるのは父母や先祖がいたから。誰か一人でも欠ければ私たちはここにいないのです。今生きている人が先祖を思い出し、手を合わせて「ありがとう」と言つてあげること。家族の絆を持つことが信仰に結びつき、それが仏様への道となります。

お寺の中に仕掛けがいっぱい
他に類を見ない「忍者寺」

はりた・じゅちよう 1949年生まれ、石川県出身。数理学博士。金沢大学卒業後、九州大学大学院数理学院に進学。その後、金沢大学理学部数学科の助手を経て同大教員となる。1986年、先代である父が佐渡にあるお寺の住職となったことを機に妙立寺住職に。日蓮宗の宗会議員を17年、うち4年間は宗務院総務局長を務める。
妙立寺／石川県金沢市野町1-2-12 <http://www.myouryuji.or.jp>